

CASBEE® 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE京都-新築（2015年版）|使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2015（v.1.0）

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|----------------------|--------|------------|
| 建物名称 | (仮称)京都・南区上鳥羽ホテル | 階数 | 地上6F |
| 建設地 | 京都市南区上鳥羽勸進橋町23番地 | 構造 | RC造 |
| 用途地域 | 準工業地域,準防火地域 | 平均居住人員 | 200 人 |
| 気候区分 | 6地域 | 年間使用時間 | 8,760 時間/年 |
| 建物用途 | ホテル, | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2018年3月 予定 | 評価の実施日 | 2017年4月12日 |
| 敷地面積 | 1,078 m ² | 作成者 | 園田 亜依 |
| 建築面積 | 507 m ² | 確認日 | 2017年4月13日 |
| 延床面積 | 2,810 m ² | 確認者 | 吉永 拓郎 |



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.7 ★★★★★

環境品質 G (0-100) vs 環境負荷 L (0-100)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算: 30%☆☆☆☆☆ 60%☆☆☆☆ 80%☆☆☆ 100%☆☆ 100%超:☆

①参照値 100%
②建築物の取組み 97%
③上記+②以外の 96%
④上記+ 96%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q1 室内環境: 2.4
Q2 サービス性能: 2.7
Q3 室外環境(敷地内): 2.4
LR1 エネルギー: 3.0
LR2 資源・マテリアル: 3.0
LR3 敷地外環境: 3.0

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境 (Q1のスコア= 2.4)

Q2 サービス性能 (Q2のスコア= 2.7)

Q3 室外環境(敷地内) (Q3のスコア= 2.4)

LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー (LR1のスコア= 3.0)

LR2 資源・マテリアル (LR2のスコア= 3.0)

LR3 敷地外環境 (LR3のスコア= 3.0)

| 3 設計上の配慮事項 | | |
|---|---|--|
| 総合 現在、京都は世界の観光都市となっており、近年では宿泊施設が不足している状況です。その為、計画地付近ではホテル建設が増加しています。高度成長期のニュータウンに位置し、低層住宅から商業施設まで混在する地域となっているので、本計画により新たな地域景観を誘導するものとして外観を計画するとともに、地域の皆様との共存共生を目指します。 | | その他 |
| Q1 室内環境 居室の建具は断熱性の向上を図り、複層ガラスとした。使用建材はF☆☆☆☆製品とし、化学物質汚染被害を防止する。 | Q2 サービス性能 設備配管類の更新等に配慮し、主要経路は共用部から維持管理点検が行えるようになっている。 | Q3 室外環境(敷地内) 建物周辺部には地被植物を設け、暑熱環境に配慮。 |
| LR1 エネルギー 窓部は省エネルギー性の高い複層ガラスとし、熱損失、熱取得の低減に努めた。また、自然エネルギー変換利用設備として太陽光パネルを設置。 | LR2 資源・マテリアル 限りある資源を有効に利用する、節水型機器を採用した。躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている。 | LR3 敷地外環境 |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される